

障害者の歯と口腔の健康を創り出すために

～歯ミフェスタ・多摩が目指すもの～

障害者が安全に食事を摂取し、良好なコミュニケーションを獲得するために、歯と口腔の健康は欠く事ができないものです。それは、歯と口腔が、生きるために必要な“食べる機能”と、社会参加のために必要な“話す機能”など、さまざまな機能を担っているからです。障害があると、その食べる機能が十分に発達しにくい場合があり、食事摂取が困難になりがちです。また、日常の口腔ケアが不足すると、むし歯や歯周病も進行します。その上、障害によって、歯科医療機関への受診も制限されることが少なくありません。

東京都多摩地域の保健所では、以前から、障害者の歯科保健・医療の問題に取り組んできました。特に歯科医師会の協力のもと、障害者施設における歯科健診や歯科保健指導、医療関係者への研修を行なうことによって障害者の歯科受診を促進し、かかりつけ歯科医を持てる環境づくりへの取組を行ってきました。さらには、都、市町村や歯科医師会等の協働により、障害者が地域で歯科医療機関を受診するためのシステムも構築されてきました。

しかしながら、そのような取組にも関わらず、地域にはまだまだ歯や口腔の状態が十分でない障害者が多数見られます。多摩地域の各保健所は、それぞれの地域の特性に合わせた障害者歯科保健の方策を、市町村、施設や医療関係者の方々と検討しながら、障害者の歯と口腔の健康づくりを推進していきたいと考えています。

多摩地域には、障害者の歯と口腔の健康づくりを目指した地道な取組が数多くあります。

このような取組ひとつひとつが、これからの多摩全体の動きを創り出していく原動力となるよう願いを込め、平成23年度に初めて、『歯ミフェスタ・多摩』を開催し、今回で5回目を迎えました。当日は、それぞれの保健所管内から推薦された障害者施設の優れた取組が報告され、参加者に大きな感動を与えました。

本冊子は、それらの取組の持つ重要なポイントを記録するとともに、多摩地域全体へ発信することを目的として作成いたしました。

これからも、歯ミフェスタ・多摩が障害者の歯と口腔の健康づくりに寄与し、QOLの向上と社会参加を進めていくための機会となることを祈念します。

平成28年3月

東京都保健所